

里川



大 正から旧十和村へ。田野々ト
ンネルが待つ。この浦越トンネルに
入らずに左側の旧道へ。しばらく
行くと浦越の集落が現れ、四万十
川を渡る抜水橋がある。眼下に
ある沈下橋を眺めつつ、抜水橋を
渡ったところから里川地区が始ま
る。左へ向かい2kmほど山へと入っ
ていくと、すり鉢状になった地形
の中に民家が点在する、誠に美し
い集落風景を見渡すことができ

る。里川の集落である。桃源郷と
いう言葉が頭に浮かぶ。
元は黒川といった。慶長2年
(1597)関ヶ原の合戦の3年
前)の地検帳に「黒川村」とあ
るようだ。近代になって「里川」
と改名した。
立地からして、大正とのつなが
りが深い歴史がある。一番近い「街」
は田野々であったし、村の子ども
たちは浦越小学校を卒業すると
大正中学校に通った。平成元年に
浦越小学校が昭和小学校に統合。
これに伴い、昭和小・中学校へのス
クールバスが運行され、中学生は
昭和中学校に通うことになるのだ
が、それまでは大正中学校に通っ
ていたのである。「自転車でそんな
にかからなかったしね。」と50代
の方。80代の方は「まだ自転車なん
て家になかった時代なので1.5
2時間かけて歩いて通った。沈下
橋すら当時はなかったんで、舟で
浦越まで渡してもらっていた。」橋
のない時代は集落の人が「舟番」
を交代で担った。その後、無人の
引き舟になったということである。
何れにしても大水が出た時には渡
れないので、学校はお休み。すで
に登校していて大雨が降ってきた



里川
切入作兵衛という人が、
を切り拓いたとされる。

時は、教員が「これは増水するか
もしれない」と判断し、子どもた
ちは早退となった。渡し舟の近く
にあった大きな岩の「ある凹み」
を増水の目印にしていた。この岩
は今もあるそうだ。

すり鉢型の里川集落の「最も
底」にあたるところに、地区の産
土神である河内神社がある。この
神社の境内に「里川沈下橋落成
記念碑」が建っている。沈下橋の
脇ではなく、集落の皆が集まると
ころに建てたのは「人々の喜びの
証」なのだという。

さて、河内神社の北側斜面の上
方に集会所がある。ここは、戦前
に村人が山を開墾した所で、戦時
中には「あの竹槍訓練」がここで
行なわれたらしい。この集会所に
は、以前、集落内にあったお寺の
仏像が祀られている。さらに、集
会所敷地内に興味深い碑がある。
墓石と思われ「開始切入作兵衛」
とある。里川の地を最初に切り拓

いた人物らしい。「きりいりさくべ
え」と読む。いつの時代の人なの
かは不明である。

町のうごき

(12月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,546	-22	男 2	23	12	13
女	8,216	-16	女 0	17	12	11
計	15,762	-38	計 2	40	24	24
世帯数	8,140	-5	(12月中の届出)			
窪川地域	11,197人		大正地域	2,185人	十和地域	2,380人

